

境界としてのロマ(ジプシー)とその音楽

日時:3月26日(木) 午後1時~5時

場所:大阪大学中之島センター7F セミナー室

1)イアン・ハンコック(テキサス大学オースティン校)

On the origin of the "Gypsy" literary image(仮題)

2)スヴァニボル・ペツタン(リュブリャナ大学)

Romani musicians as cultural mediators: Patterns of interaction and representation in Kosovo

コメンテータ:ロベルト・ガルフィアス(カリフォルニア大学アーヴァイン校、

国立民族学博物館外国人研究員)

岩谷彩子(広島大学)

進行:寺田吉孝(国立民族学博物館)+伊東信宏(大阪大学)



主催:大阪大学グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文学」研究プロジェクト「音楽の生産・流通・消費におけるコンフリクト」、および人間文化研究機構連携研究「ユーラシアと日本」

協力:国立民族学博物館

お問い合わせ:大阪大学大学院文学研究科 伊東研究室(音楽学) 06-6850-5124

itonob@let.osaka-u.ac.jp

イアン・ハンコック Ian Hancock

テキサス大学オースティン校（アメリカ合衆国）教授。同ロマニ資料館長、ドキュメンテーション・センター長兼任。専攻は言語学。学界の活動だけでなく、ロマニの人権擁護運動やネットワーク化に尽力し、ウィーンを本拠地とする世界ロマ会議の会員や、国連経済社会理事会およびユニセフにおけるロマの代表者をつとめる。400以上の著作があり、邦訳には「ジプシー差別の歴史と構造—バーリア・シンδροーム」（2005年、彩流社）がある。

スヴァニボル・ペタン Svanibor Pettan

リュブリャナ大学（スロベニア）芸術学部教授。民族音楽学科長をつとめる。ザグレブ大学（学士）、リュブリャナ大学（修士）において音楽学、メリーランド大学（博士）において民族音楽学を学ぶ。ザンジバル、エジプト、コソヴォの音楽文化を対象として、音楽を政治と戦争、多文化主義、マイノリティの文脈から研究するとともに、応用民族音楽学の理論と実践にも関心を寄せている。国際伝統音楽評議会の理事や、Ethnomusicology Forum（イギリス）、The World of Music（ドイツ）など数多くの学会誌の編集委員をつとめている。

ロベルト・ガルフィアス Robert Garfias

カリフォルニア大学アーヴァイン校人類学部教授。北米を代表する民族音楽者。過去40年間にわたり、日本、沖縄、ルーマニア、ミャンマー、トルコ、メキシコなど世界各地で精力的に調査・研究を続けている。アメリカ民族音楽学会元会長。著書にMusic: The Cultural Context (2004年、国立民族学博物館) など。クリントン政権時代にはアメリカ合衆国の文化諮問委員を歴任。2009年3月末から3ヵ月間、外国人研究員として国立民族学博物館に滞在する。

岩谷彩子

広島大学大学院社会科学研究科准教授。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了（人間・環境学博士）。専門は文化人類学。1995年より、南インドやフランスで「ジプシー」と呼ばれている移動民の宗教・社会研究にたずさわる。「ジプシー」社会への映像人類学的なアプローチも模索中で、『ギリシャ—歌謡とロムが息づく国』（2007年）などを制作。主著に『夢とミメシスの人類学—インドを生き抜く商業移動民ヴァギリ』（2009年、明石書店）がある。